

「久志小中学校の八月踊り伝承活動の取組」

1 学校名

宇検村立久志小中学校

2 学年・人数

小学1年生から中学3年生（計9人）

3 日時・場所

（1）練習の日時・場所

9月 久志小中学校体育館

（2）発表の日時・場所

9月 久志小中学校大運動会

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能，伝統行事について

（1）名称

八月踊り（はちがつおどり）

（2）由来

奄美には昔から豊作を祝って、「豊年祭」という祭りが行われている。子どもや男衆による相撲が奉納され、その土俵を囲んで行われるのが八月踊りである。祭りの日だけでなく準備期間中も、夕食が終わった頃に土俵の周りに集落民が集まり、輪になって踊る。

踊り方が集落によって異なるため、久志校の3集落の踊りを毎年交代で踊り継いでいる。始まりは定かではないが、運動会の種目として20年以上続けている。

（3）構成等

手提げ太鼓のチヂンを複数名が叩き（必ず集落の児童生徒がメンバーに入る）、各集落のお年寄りの方々が歌う八月唄に合わせながら、運動会の参加者が全員で校庭に輪になって踊る。

本年度は、「みっされ」「ほこらしゃ」「おりそ」「やなぎは」の4曲を踊り、最後は六調を踊りながら、退場した。

5 保存会や地域との連携の具体

毎年、9月の第1週に、集落の区長や老人会長に出席をしてもらい、運動会の打合せ会を実施している。その場で、八月踊りを指導してくださる方の選出と練習日の日程を決定している。

八月踊りの唄は、いくつもあるので、その中から児童生徒が踊りやすい曲を選曲するとともに、前年の曲目を参考にしながら、なるべく同じ曲で踊れるように配慮していただいている。

学校で行う八月踊りの練習は、各集落の敬老会の方が学校に来て、2時間を費やして指導をしてくださっている。また、豊年祭を敬老の日に合わせて実施する集落もあり、児童生徒に参加を呼びかけ、学校だけではなく、集落でも踊

るようにしている。

八月踊りの保存会はないが、集落ごとに昔から受け継がれてきている。しかし、集落によっては、踊りは分かるが唄が歌えないという方も増えてきており、事前に唄を吹き込んだCDを準備し、当日はそのCDに合わせて踊る場合もある。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

八月踊りを指導していただく地域の方々と練習の日いきなり対面することで、お互いが緊張してしまうことがないように、一学期に、「高齢者とのふれ合い活動」を実施して、グラウンド・ゴルフで交流を深めている。

また、踊りはできるが、唄を歌うことができないという方が少しずつ増えてきている現状を踏まえ、10年ほど前に村の教育委員会が作成した八月踊りのビデオから、唄の音源をCDにする作業も行った。

今後は、運動会の八月踊りで踊る曲については、音楽の時間などを利用して、児童生徒が歌えるような手だてをとっていく必要がある。

7 取組の様子（練習状況、発表の場等）



練習前の自己紹介



練習の様子



秋季大運動会での発表



秋季大運動会での発表

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

- ・ おじい、おばあにおしえてもらったら、じょうずにおどれました。
(児童から)
- ・ 私の隣にいた方が、ちらっと私の方を見ながら踊ってくださったので、安心して練習することができました。(生徒から)
- ・ 本番は、たくさんの方が参加してくれたので楽しかったです。(生徒から)
- ・ 地域の方が丁寧に教えてくださったので、全く振り付けがわからなかった私でも踊れるようになりました。集落ごとに違う振り付けなので、毎年交代で様々な集落の振り付けが楽しめてうれしいです。(教職員から)
- ・ 子どもたちと地域の方々が一つの輪になって踊る姿を見て、温かい気持ちになりました。子どもたちは、地域の方々の間に入り、緊張しながらも楽しそうに踊っていました。(保護者から)
- ・ どなたでも参加できる雰囲気がいいと思います。(保護者から)
- ・ 小さな子どもから、高齢者まで一つの大きな輪になって踊る時間は特別な気がします。こうやって踊った子どもたちが、また大人になって、次の世代に伝えていくきっかけになったらいいなと思います。(地域の方から)
- ・ 校庭をぐるりと一周する大きな輪は、壮観でした。この子どもたちがか大人になり、久志校の保護者、地域のおじ・おばという立場で参加し、受け継がれていくことでしょう。(地域の方から)